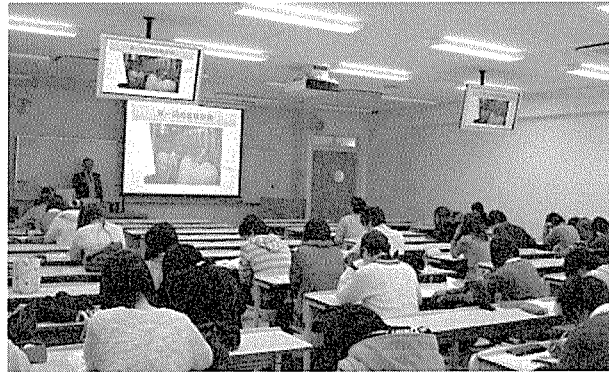


植村会長がTOKYO Xのブランド戦略を特別講義―日本獣医大学で



ことが説明された。

また、現在は第4次ブランド化戦略が遂行されていることも説明した。食育を絡めながら、消費者が良い食材を選別できる能力を身に付け、その食材に見合ったフェアトレードで購入し、その購入を継続することで良い生産者が増え、食料自給率が上がり地産地消も活発になる。消費者の購買活動は、生産に大きくかわっており生産工程の一部を担っていることを消費者に啓蒙している。それが、今行っている第4次ブランド化だと締めくくった。

最後に、海外と日本の畜産の違いについて質問が出たが、講義を受け持ったTOKYO X-Associationの植村光一郎会長からは、残念だが生産者、流通、消費者の関係が日本の場合、希薄であるように思うと答えていた。

「農場HACCP推進農場」に新たに4農場を追加、100農場に  
公益社中央畜産共進会は24日、農場HACCP推進農場として新たに申請された、(有)澤井牧場第2牧場(滋賀県、肉用牛)、(株)サイボク東北牧場(宮城県、豚)、高田養鶏場(熊本県、採卵鶏)、(有)知多エッグ(愛知県、採卵鶏)、計4農場を推進農場に指定した。

平成23年5月25日の第1次から今回の第9次指定までで、農場HACCP推進農場の指定農場数は計100農場(牛関係18、豚関係51、鶏関係31)となった。

なお、第1次の25農場と第2次の14農場は、認定農場への移行などから有効期限が満了、指定農場リストから削除されている。